

日本高専学会

第30回総会議案書

期 日：2024年6月1日（土）

大阪公大高専・オンライン

会長あいさつ

山下 哲

第30回の総会を迎えるにあたり、会員の皆様には、本会の発展のために日頃からご協力とご支援を賜り感謝申し上げます。昨年度から会長として2期目に入りましたが、会員管理システム「バザールバザール」の有効利用、研究助成制度や研究会の活性化など、新たに取り組みに理事と共に尽力して参りました。今年度は本学会設立30周年を迎え、これまでの本学会活動を振り返り、新たなる方向性を皆様と一緒に考えていきたいと思っております。理事の方々と共に、会員の皆様のお役に立てるよう精一杯尽力していきますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度は新型コロナウイルス感染症が完全に終息したわけではありませんが、コロナ禍以前の対面授業中心に実践できた1年でした。感染症などによって所属高専から自宅待機を命じられた学生も受講できるよう、対面授業と遠隔授業の併用できるハイブリッド型授業の定着化が望まれております。この他にも、高専の海外展開、社会実装教育など高専の高度化事業が目白押しですが、全国の高専教職員の技術と機動力を持ってすれば、高等教育機関としてのこれら先駆的活動を成し得ると期待されております。これまで日本高専学会で培われた高専教育に関するノウハウを共有し、高専の高度化事業を実現するための足掛かりとなるよう、日本高専学会の活動を活性化させていきたいと考えております。

日本高専学会が皆様にとって実り多き場を提供できるよう真摯に取り組みますので、今後とも引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年6月1日

I 2023年度事業報告

1. 会議

1.1 総会

2023年05月20日(土) 於：神戸UNITY・WEB会議

1.2 理事会

第1回理事会 2023年5月20日(土)・21日(日) 於：神戸UNITY

第2回理事会 2023年8月29日(火) 於：新居浜高専

第3回理事会 2023年12月9日(土) 於：WEB会議

第4回理事会 2024年2月17日(土) 於：WEB会議

2. 各部会報告

2.1 研究部会 部長：北野健一

(1) 学会誌編集委員会 (編集委員長：梶間由幸)

2023年度には4冊の学会誌(28巻2号, 28巻3号, 28巻4号, 29巻1号)を予定通り発行した。28巻2号では「GEAR 5.0(未来技術の社会実装教育の高度化)」と題して特集を組み実践活動を紹介した。28巻4号では「未来を切り拓く挑戦：高専生が輝く新コンテスト」と題し、これまであまり知られていなかったコンテストを特集した。高専フロントランナーでは、女性教職員を広く紹介することを目的として執筆依頼を行った。

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため、2021年発行の学会誌より、年4回の学会誌のうち2冊を論文特集号としWEB掲載のみ(冊子体での配布を行わない)としている。28巻3号は「第19回論文特集号」、29巻1号はWEB掲載の「第20回論文特集号」として高専教職員の教育・学術研究の成果をまとめ、広く世間に公表する役割を果たした。

(2) 論文審査委員会 (委員長：宇野宏司)

2023年度に受理した投稿論文総数は、第29回年会講演会での推薦論文5編、一般投稿論文15編の計20編であった。査読審査を行い、2023年末までに査読を通過した論文11編を学会誌(第29巻1号)に掲載した。また、その後掲載可となった論文7編を学会誌(第29巻3号)に掲載予定である。

なお、投稿論文の査読体制は一件当たり2~3名の査読者を維持しており、延べ29名の委員に査読を依頼した。

(3) 表彰選考委員会 (委員長：出口智昭)

a) 2023年度の日本高専学会「研究奨励賞」には、北海道地区から九州地区まで、全国16高専から17件の応募があった。申請論文の分野別内訳は、機械系3件、電気・電子・情報系6件、物質・化学・生物系5件、建築・土木系3件であった。

これら17件のうち、5件が第一次審査を通過し、第二次審査において最優秀賞1件、優秀賞3件が選出された。これらの審査結果については、総て会長による了承が得られ、各賞が授賞された。

2022 年度 研究奨励賞

最優秀賞

学生氏名： 高田 りん (たかだ りん)

所 属： 旭川工業等専門学校 専攻科 応用化学専攻

研究題目： 金属材料防食用有機塗膜への自己修復性付与とこの修復性，耐食性の評価

優秀賞

1) 学生氏名： 中本 菜月 (なかもと なつき)

所 属： 北九州工業高等専門学校 専攻科 生産デザイン工学専攻

研究題目： 衣類の自動埃取りシステムおよび靴の自動収納取出システムの開発

優秀賞

2) 学生氏名： 田崎 傑士 (たさき たけし)

所 属： 長岡工業高等専門学校 専攻科 物質工学専攻

研究題目： レアメタルフリーベースの次世代化合物薄膜太陽電池の高効率化に向けた高品質薄膜作製技術の開発

3) 学生氏名： 浅田 穂乃果 (あさだ ほのか)

所 属： 徳山工業高等専門学校 専攻科・環境建設工学専攻

研究題目： パイピング現象を考慮した新たな斜面崩壊予知手法に関する研究

b)2022 年度「活動奨励賞」の募集を行い，表彰選考委員会で審査を行った．全 3 高専から 3 件の申請があり，厳正な審査の結果，2 件の活動奨励賞とともに 1 件が活動奨励賞特別賞として選出された．これらの審査結果については全て会長による了承が得られ，受賞を確定した．

2022 年度 活動奨励賞

【活動奨励賞】

1) 受賞者： 守山 凜 (もりやま りん)

所属校： 米子工業高等専門学校

活動名： 中高生を対象とした学生主体の情報セキュリティ教育

2) 受賞者： 岡崎 響一 (おかざき きょういち)，加納 一龍 (かのう いちろう)，
羽野 蒼一郎 (はの そういちろう)，藤村 優太郎 (ふじむら ゆうたろう)，
馬渡 大明 (まわたり ひろあき)，関根 陸人 (せきね りくと)

所属校： 東京工業高等専門学校

活動名： 浅川地下壕の三次元デジタルアーカイブと平和学習教材の開発

【特別賞】

1) 受賞者： 新居浜高専 ロータアクト部

所属校： 新居浜工業高等専門学校

活動名： 地域の社会福祉事業へのボランティア参加活動

(4) 企画委員会 (委員長： 松本高志)

a) 研究助成制度

日本高専学会では 2021 年度に研究助成制度を創設し，高専教育に貢献する研究への支援を行っている．2024 年度は，厳正な審査の結果，次の 2 件の研究課題が採択された．

1. 研究課題：高専留学生の活用によるキャンパスの国際化と実践的日本語教育の探求
研究代表者：山田 朱美（津山工業高等専門学校 海外展開 准教授）
2. 研究課題：デジタル技術活用による数学教材開発の業務効率化とその全国高専への普及
研究代表者：遠藤 健太（阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 一般教養 助教）

b) シンポジウム

2023年5月20日（土）の総会後に「社会実装教育」をテーマにシンポジウムを実施した。
下記の3件のオンラインによる講演およびパネルディスカッションを行った。

- 多羅尾進（東京高専） 「社会実装教育のここに至るまでの取り組み」
鈴木慎也（東京高専） 「社会実装教育と地域連携・社会還元
～浅川地下壕三次元地図の教材化～」
富沢哲雄（東京高専） 「浅川地下壕の三次元地図生成プロジェクト」

2.2 運営部会 部会長：鈴木昌一

(1) 財務委員会（委員長：土井智晴）

2023年度会計は、物価上昇を受けて印刷費等の支出が増加したことや、コロナ禍が終わり総会をオンラインから対面形式に変更したことなどにより支出が若干増加し、繰り越し金額は1,108,129円であった。

2024年度は30回の節目となる年会講演会を函館高専で実施することから、特別会計の一部を一般会計に移して使用する。

監査の際に、旅費の請求と執行について詳細な情報を添付するよう検討の依頼があった。2024年度会計監査に向けて、分かりやすい様式の作成など検討を行っていききたい。

(2) 役員選考委員会（委員長：山下 哲）

2023年度は役員改選の実施年度ではなく、活動は行っていない。

(3) 年会実行委員会（委員長：山下 哲）

日本高専学会第29回年会講演会を新居浜高専にて8月30日（水）～9月1日（金）の3日間の日程で行った。オンライン発表を併用したハイブリッド形式で開催した。

参加人数は126名（教職員・一般73名、学生53名）であり、発表件数は91件（一般講演43件、学生発表48件）であった。

(4) 広報委員会（委員長：船島洋紀）

日本高専学会第30回年会講演会の参加・発表申し込みページ、第30回総会開催ページを作成し、問題なく運用できている。EBSCO社とやりとりをし、高専学会の学会誌を学術論文データベースに登録した。

3. 研究所活動

3.1 ブレイクスルー技術研究所（所長：大成博文）

下記のプロジェクトなどに取り組んだ。

(1) 長野県阿智村プロジェクト

阿智村元村長岡庭一雄氏との情報交流を行い、阿智村の農業問題を検討した。このなかで、阿智村における農業問題の特徴を考究し、農業支援を行う協力者の推薦をお願いした。

(2) 大分県国東プロジェクトを実行する。

マイクロバブル研究会を軸にして、次の地域再生の課題を研究した。

①七島イ部会

七島イの苗栽培に関する実験を行った。また、採取した七島イの種を用いて七島イの苗作りが可能なことを確かめた。

②農業部会

1) 沖縄恩納村における野菜工場において、光マイクロバブルの増設を行い、生産性の向上が図られたことから、さらにその増設問題が検討されている。また、光マイクロバブル技術を用いた生産性向上を図るために、光マイクロバブル水の葉面散布問題が検討された。沖縄の農業改善のために、沖縄の土質改善の問題が検討された。

2) 台湾における光マイクロバブル技術を用いた植物工場の設備に関する検討がなされ、実験用の植物工場が設置された。マレーシア農業省の農業研究所との光マイクロバブル技術に関する研究討議がなされた。

3) 地元農家と協力して、無農薬、無肥料の光マイクロバブル小ネギ栽培の生産性向上が実現し、その商品販売の拡大に貢献した。また、その土壌改良についても研究し、無農薬、無肥料栽培においても豊かな肥えた土壌作りが、光マイクロバブル技術を用いて可能であることを見出した。

③ペット洗浄部会

地元および全国のトップトリマーと協力してペットの精密洗浄、口腔ケアに関する研究が進展した。高性能の洗浄ケア装置の開発がなされ、その販売を行う新会社の設立を支援した。

(3) 北海道ウニ・昆布プロジェクト

新たに発足させたウニ加工過程の改善、ウニ専用の昆布養殖法について、北海道の業者との共同研究を進め、一関高専の専門家を紹介し、その協力を得た。

(4) 国際プロジェクト

マレーシアにおける農業、漁業改善に関する技術支援に関して、マレーシアの日本大使館および農業省農業研究所との情報交流を行った。

(5) 大分県中津市のK整形外科病院および同病院介護老人保健施設との共同研究を進展させた。とくに、口腔ケアに関するより具体的な共同研究によって重要な成果を得た。

(6) また大分県中津市の歯科医と協力して、口内細菌の不活化および歯科機器の新たな開発を進展させた。

(7) コロナプロジェクト

大学教員2名、高専教員1名、民間企業2名（代表者は大成博文（㈱ナノプラネット・大成研究所））によるコロナプロジェクトを継続して情報交流に努めた。また、上記6)の成果を得て、コロナ対応の機器開発を検討した。

(8) 有明海海苔プロジェクト

佐賀大学K教授、水産研究センター（国立行政法人）のF研究員との共同研究が開始され、光マイクロバブル技術を用いた海苔の品質改善に関する研究が進展し、重要な成果を得た。また、活動を通じて海水光マイクロバブルの研究において非常に重要な進展が得られた。

4. 研究会

2023年度の総会において、一般科目の効果的AL教育法開発研究会、高専人権研究会およびKOSENプロフェッショナル・コミュニケーション研究会が承認され活動を行った。

一般科目の効果的AL教育法開発研究会では、数学、化学、国語、英語、社会、体育の6科目において活動が行われた。活動ではオンラインミーティングやメール会議を活用し、メンバーの授業実践に関する情報交換や、AL型も含めた授業の報告、その授業に対する意見交換が行われた。

高専人権研究会では、『これからの社会を生きていくための人権リテラシー』（北樹出版、2023年4月）を発行し、これを使用して大阪公大高専において「ダイバーシティと人権」の授業を実施した他、第41回開発教育全国研究集会においても、自主ラウンドテーブル「ワークショップで学ぶ「人権リテラシー」」にて教材を紹介するなどの活動を行った。

KOSENプロフェッショナル・コミュニケーション研究会では役員会の他、令和6年3月28日に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて研究会を実施し、4件の事例発表とパネルディスカッションを実施した。

5. 会員状況等（2024年5月27日現在）

5.1 会員数

会員数は、この1年間で9名増の285名となった。なお、会員数は個人会員と賛助会員の和である。

また、種別ごとの会員増減数は以下のとおりである。（）は前年度数。

正会員	249	(241)	8名増
学生会員	5	(6)	1名減
シニア会員	24	(22)	2名増
賛助会員	7	(7)	0社 増減なし

賛助会員

片岡計測器サービス(株) (山口県), 新日本製鐵(株) (千葉県), 日本フェンオール(株) (東京都), (株)学術図書出版社 (東京都), 理想科学工業(株)宇部工場 (山口県), 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (東京都), メディア総研(株) (福岡県)

5.2 学会誌の購読等

(1) 学会誌購読先

- ・ 広告掲載企業 2社：
株式会社学術図書出版社（東京都）、メディア総研株式会社（福岡県）、
- ・ 図書館等の購読 16校 1社：
函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、
秋田工業高等専門学校、仙台高等専門学校（広瀬キャンパス）、
舞鶴工業高等専門学校、津山工業高等専門学校、大島商船高等専門学校、
有明工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、
大阪公立大学工業高等専門学校、豊橋技術科学大学、宇部工業高等専門学校、
富山高等専門学校（射水キャンパス）、大分工業高等専門学校、
東京官書普及株式会社

※2024年度の学会誌の購読について、函館高専から辞退の連絡があった。

(2) 学会誌無料配布先

国立高専機構，文部科学省，大学改革支援・学位授与機構，日本工学教育協会，
読売新聞東京本社
に配布

II 2023年度決算

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

収入

項目	予算額	決算額	備考
前年度から繰越	1,495,978	1,495,978	
会費(正会員)	1,659,000	1,486,000	新規入会(11件) 49,000円含む
会費(シニア会員)	32,000	92,000	シニア終身新規入会(2件×30,000円)含む
会費(賛助会員)	70,000	50,000	2件の未納あり
広告収入	60,000	60,000	
学会誌購読料	119,000	133,000	
学会誌別刷料・掲載料	150,000	280,400	別刷り収入(3200円)
雑収入・利息	200,000	547,197	JST著作権抄録使用料 ¥2,200 年会実行委員会からの返金 ¥534,515 学術振興協会 ¥2,200 預金利息 ¥2 バックナンバー、講演概要集 ¥7,000 など
当年度小計	2,290,000	2,648,597	
合計	3,785,978	4,144,575	

支出

項目	予算額	決算額	備考
学会誌発行費	800,000	862,042	2回分
2024年度年会運営費	500,000	500,000	2024年度経費の先払:2024/3/17
事務局経費	100,000	12,388	事務局長 ¥6,622 財務委員会 ¥1,421 ゆうちょ振替口座振込手数料 ¥4,345
理事会等会議費	500,000	882,409	総会(Unity施設利用料含む)・年会・函館視察の旅費(ただし1件:¥25,090の未払いあり)
会員管理クラウドサービス利用料	115,000	110,000	
学会誌編集委員会経費	300,000	45,360	
論文審査委員会経費	100,000	94,230	
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	30,017	
選挙管理委員会経費	0	0	
公募型研究助成金	500,000	500,000	2件
予備費	790,978	0	
当年度小計	3,785,978	3,036,446	
翌年度へ繰越		1,108,129	
合計	3,785,978	4,144,575	

特別会計

項目	予算額	決算額	摘要
収入 前年度繰越金	2,500,000	2,500,000	
支出 翌年度繰越金	2,500,000	2,500,000	

III 2023年度会計監査報告

監査報告書

2023年度収支決算書に相違ないことを認めます。
ただし、1件の未払があるので、2024年度会計にて支払いを行うこと。

2024年5月28日

監査

(自著) 東田卓

(自著) 金田忠裕

IV 2024年度事業計画（案）

1. 会務

- (1)総会 1回（6月1日）
- (2)理事会 4回（6月，8月，11月，2月を予定）

2. 行事

- (1)年会・講演会 1回（9月4日～6日）
- (2)連続シンポジウム 1回（6月1日）

3. 学会誌の出版

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため、2021年発行の学会誌より、年4回の学会誌のうち2冊を論文特集号としWEB掲載のみ（冊子体での配布を行わない）としている。2024年度も昨年と同様に年4回の学会誌発行を維持していく。

冊子体により発行する学会誌では、教育改善や国際展開等、現状から将来に向けた展望を

探る多様な特集企画や、学生の取り組み紹介を行っていく予定である。

今後も「魅力あふれる日本高専学会誌」とするため学会員には引き続き、情報提供とご支援をお願いする次第である。

2024年度の学会誌の発行は、

29巻2号 2024年4月 (発行済)

29巻3号 2024年7月 (第19回論文特集号, WEB掲載)

29巻4号 2024年10月

30巻1号 2025年1月 (第20回論文特集号, WEB掲載)

とする。

4. 研究助成

高専教育に貢献する研究への支援を行うため、研究の助成を実施する。

5. 技術者教育・研究活動への貢献

ブレイクスルー技術研究所(所長:大成博文)において、以下の課題に取り組む。

(1) 長野県阿智村プロジェクト

引き続き、阿智村元村長岡庭一雄氏との情報交流を行い、阿智村の農業改革問題を検討する。また、大分県における光マイクロバブル技術を用いた無肥料、無農薬農業の成果を阿智村の方々に紹介する。とくに、米作における先進事例を報告する。

(2) 大分県国東プロジェクトを実行する。

マイクロバブル研究会を軸にして、次の地域再生の課題を研究する。

①七島イ部会

引き続き、七島イの種を用いた苗作りを研究する。

②農業部会

1) 沖縄恩納村における野菜工場において、光マイクロバブルの増設に伴う生産性の向上、栽培技術の改善方法を検討する。沖縄の農業改善のために、沖縄の土質改良方法を検討する。

2) 台湾における光マイクロバブル技術を用いた植物工場の栽培方法を検討する。マレーシア農業省の農業研究所との光マイクロバブル技術に関する研究交流を発展させる。

3) 地元農家と協力して、無農薬、無肥料の光マイクロバブル野菜栽培に関する共同研究を発展させる。同時に、光マイクロバブル技術を用いた土壌づくりを研究する。

③ペット洗浄部会

地元および全国のトップトリマーと協力してペットの精密洗浄、口腔ケアに関する研究をより発展させる。ペット用、およびヒト用新型の精密洗浄装置を開発する。

(3) 北海道ウニ・昆布、東北ホタテ養殖プロジェクト

引き続き、ウニ加工の改善および内湾、および沿岸におけり昆布養殖法の改善に関する支援を行う。陸奥湾におけるホタテ養殖改善問題を検討する。

(4) 国際プロジェクト

マレーシア農業省農業研究所との技術交流を図る。

(5) 大分県中津市のK整形外科病院および同病院介護老人保健施設との共同研究を発展させる。

(6) 大分県中津市の歯科医と協力して、口内細菌の不活化および歯科機器の新たな開発を発展させる。

(7) 有明海海苔プロジェクト

佐賀大学K教授、水産研究センター(国立行政法人)のF研究員との共同研究をより発展

させ、その成果を論文発表する。

6. 研究会の申請

・KOSEN プロフェッショナル・コミュニケーション研究会

代 表：山田朱美（津山）

研究会会員：杉山 明（津山，事務担当），加藤由香里（東工大），山下哲（木更津），
北野健一（公大），金田忠裕（公大），加田謙一郎（木更津），
梅木俊輔（仙台）

7. その他

(1) 高専に所属する学生を対象とした表彰を行う。

1) 日本高専学会研究奨励賞（対象：専攻科生 10月頃募集予定）

2) 日本高専学会活動奨励賞（対象：学会誌に報告がなされた高専生 4月頃募集予定）

(2) 会員増加活動

(3) ホームページやメールマガジンを用いた学会活動の発信

V 2024年度予算（案）

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

1. 一般会計

収入

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	1,108,129	
会費(正会員)	1,743,000	249名×7,000円
会費(シニア会員)	36,000	9名×4,000円(終身会員を除く)
会費(賛助会員)	70,000	7団体×10,000円
広告収入	60,000	
学会誌購読料	112,000	16団体×7,000円
学会誌別刷料・掲載料	280,000	2023年度実績より
第30回年会講演会特別会計	500,000	
雑収入・利息	200,000	年会講演会実行委員からの返金
合計	4,109,129	

支出

項目	予算額	摘要
学会誌発行費	900,000	学会誌2号分
年会運営費	500,000	年会講演会運営費
事務局経費	100,000	郵送費・サーバ代
理事会等会議費	1,000,000	総会・年会講演会等旅費
会員管理クラウドサービス利用料	110,000	年間利用料
学会誌編集委員会経費	100,000	執筆謝礼・編集用ソフトウェア代
論文審査委員会経費	100,000	査読謝礼
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	表彰状・副賞, 通信・送料
選挙管理委員会経費	40,000	
公募型研究助成金	500,000	
予備費	679,129	
合計	4,109,129	

2. 特別会計

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	2,500,000	
	第30回年会講演会特別会計	500,000	記念講演会のため
支出	翌年度繰越金	2,000,000	
	合計	2,500,000	

2023, 2024 年度 役員一覧 (任期: 2025 年第 31 回総会まで)

【理事会】

会 長 山下 哲 (木更津)
副 会 長 北野健一 (公大)
 鈴木昌一 (鈴鹿)
事務局長 江原史朗 (宇部)
理 事 宇野宏司 (神戸), 粳間由幸 (米子)
 出口智昭 (有明), 土井智晴 (公大)
 船島洋紀 (近大), 松本高志 (阿南)
 吉本弥生 (岡山県立大学)

【監 事】

金田忠裕 (公大), 東田 卓 (公大)

【顧 問】

梅津清二 (元大分), 萩原保一 (元大阪府立), 深川勝之 (元宇部), 大成博文 (元徳山),
吉田喜一 (元東京都立), 氷室昭三 (元有明), 赤対秀明 (元神戸), 山本孝子 (元徳山)

2023, 2024 年度 部会・研究所等担当者一覧

1. 研究部会 (部会長: 北野健一副会長)

(1) 学会誌編集委員会 ○学会誌の出版に関する業務全般を担当する.

編集委員長: 粳間由幸 (米子)

委 員 員: 宇野宏司 (神戸), 江原史朗 (宇部), 北野健一 (公大), 権田岳 (米子),
坂井二三絵 (公大), 坂東将光 (近大)

(2) 論文審査委員会 ○投稿論文の審査に関する業務全般を担当する.

委 員 長: 宇野宏司 (神戸)

副委員長: 山下哲 (木更津)

事務局長: 岡本昌幸 (宇部)

委 員 員: 井上千鶴子 (公大), 柳原聖 (有明), 江原史朗 (宇部), 大淵真一 (神戸),
明石剛二 (有明), 田中康徳 (有明), 坪根弘明 (有明), 武内将洋 (明石),
武長玄次郎 (木更津), 大槻香子 (釧路), 大塩愛子 (神戸)

(3) 表彰選考委員会 ○日本高専学会研究奨励賞と活動奨励賞に関する業務全般を担当する.

委員長: 出口智昭 (有明)

委 員 員: 鈴木昌一 (鈴鹿), 坂東将光 (近大), 坪根弘明 (有明), 竹内伯夫 (有明),
石橋大作 (有明)

(4) 企画委員会 ○定例のシンポジウムの企画と次回年会の開催計画を立てるとともに,
必要あれば新規事業について企画する.

委員長: 松本高志 (阿南)

委 員 員: 山下哲 (木更津), 北野健一 (大阪)

2. 運営部会（部会長：鈴木昌一副会長）

- (1) 財務委員会 ○財務方針と中期計画の作成を担当する。会員名簿管理を含む。
委員長：土井智晴(公大)
副委員長：吉本弥生(岡山県立大学)
- (2) 役員選考委員会 ○役員選出年度の役員選考実施全般の業務を担当する。
会長，副会長，事務局長
なお，選挙管理委員（定員3名，委員長は委員からの互選）は会長の指名による。
- (3) 年会実行委員会 ○当該年度の年会実施全般の業務を担当する。
委員長：山下哲(会長)
事務局担当：鈴木昌一(副会長)
- (4) 広報委員会 ○ホームページとメーリングリストの管理運営，広報の企画実施を担当する。
委員長：船島洋紀(近大)

3. 研究所等

(1) ブレイクスルー技術研究所

所 長：大成博文（ナノプラネット研究所）

研 究 員：吉岩哲也(元大分高専，大分)

研究協力員：高見徹(西日本工大，福岡)，大成由音(株)ナノプラネット研究所，代表取締役，国東)・会計担当，宮田直也(株)無限企画，代表取締役，福山)，熊谷久栄(美容院「9A」代表，仙台)，橋本昭夫(日本サルヴェージ株式会社，東京)，山本宏((株)あぴろード 代表取締役，京都)